

## <受講者のアンケートから（抜粋）>

○気持ちの持ち方や考え方の大切さを感じました。学校に行かないことを重要視するのではなく、だからどうしようと他に目を向けられる視野の広さと考え方の重要性を大切にしていきたいと感じた講座でした。

○不登校の子育てを行う中で、自分なりに気づいて考え方をえることができた部分もありました。子どもが自立し、ずい分時間がたった今、サポーター受講の基本姿勢を再点検すると、まだまだできていない自分に気づきましたが、脳の癖はなかなか治りません。繰り返し繰り返し死ぬまで「自分の生き方」の勉強の目標ができました。この講座でいただいた、たくさんのキーポイントをぶつぶつと唱えながら、本当にありがとうございました。

○児童に関しては子育ての延長だと自分なりに解釈していましたが、この講座を受講して深く思い知らされ、大変に勉強になりました。

○風邪などで、欠席もありましたが、参加できてとても充実した役に立つ講座でした。たくさんの方がこのような講座を必要としていると思いますので、今後もよろしくお願いします。

○今回講座を受講したことで、今の不登校の現状を知り、少し理解することができました。不登校で悩む方のために「語り合いの場」や講座がいくつもあることや、進路に関するいろいろな選択肢を紹介しており、サポートが行き届いているのを感じました。一人で悩んでいるときには、このような語り合いの場が大きな力になると思いました。

○自分の思いとは違う方の言葉に、共感することはとても難しいと思います。つい、自分の考え方を押し付けたりしがちですが、基本姿勢を常に頭に置きながら、今後携わっていきたくと思いました。特に、自分の状況をみると「自分は正しい」・・・の文章には考えることがたくさんありました。多くのことを学ばせていただきました。ありがとうございました。

○子どもは悩み苦しみ大人になっていく過程で周囲の心配やサポートを得られやすい状況にあります。一方、その状態を必死に支える保護者や家族に対してのサポートが少なく、限られているように感じました。「親が悪い」「育て方が悪い」と心無い言葉をかけられたり、自問自答し自責の念にかられた意見を多く耳にし、胸が痛くなりました。人は誰でも認められたいものです。長阿彌先生の笑顔や肯定的な雰囲気の中で、ほっとする方もたくさんいらっしゃると思います。保護者や家族に焦点を当てることで、家の中に変化が起こ

ることを期待したいです。

○「ゆっくり、優しく、何度でも」この社会に一番必要不可欠な言葉ですね。講座を受けて良かったです。やはり、言葉を交わす事の大事さも改めて感じました。最後に一人一人の感想や思いを伝える場を設けてくださって大変勉強になりました。

○不登校の入り口は子どもや家庭で様々であり、当事者にとっては本当につらいことであることは理解していたものの、ただ端で見守るだけでふがいない自分でしたので、自分にも何かできることがあるかもしれないと受講しました。学校に戻るのもひとつ、立ち止まって他の道を選ぶことも一つ、尊重の中で子どもが自分で考え選んだ道には無限の可能性のあることに気づかされました。支援の気持ちは以前にもまして強くなりましたが、まだまだバイアスがかかっている自分があるようで、当事者にかける言葉一つで大きく左右してしまいそうで自信がありません。自分なりの体験や学びをもう少し重ねて、誰かの伴走者になれたらなと考えています。講座を通して、講師の先生の人柄に触れることができ、私の人生の宝物になりました。

○自分の子で、長い間一人で悩んで、自分なりのやり方で不登校と向き合ってきたが、幸いにして、子どももやっと自立の道を歩き始め、自分なりにほっとして、自分の経験が何かのお役にたてればという思いで参加しましたが、不登校の課題に向き合っている方がたくさんおられることに驚きました。先生の、寄り添うこと、バイアス思考のこと、同伴者当事者意識と、もっと堅苦しいお話しとっていたら、とても力を抜いて自分らしくともに考え合うという新しいスタンスを教えていただき、とても新鮮で自分も楽になりました。残り少ない人生を自分らしく、少しでもお役にたてる仕事ができればと思っています。

○私はどうしても子どもに対して「あれしなさい、これしなさい」とガミガミ言っています。そんな時は深呼吸してだめだめ！と思い子どもの良いところを誉めて「こういう良いところもあって頑張れるんだからやってみよう」ともう一度言うように気を付けだしました。私自身も子どものころは母に反発していたし、できない事もたくさんあったなと思い返せるようになりました。これは、先生の話聞くようになって、自分を振り返る余裕ができたのだと思います。この講座を受けている途中から市の支援員の仕事を始めるようになりました。この講座のおかげで、お母さんの話を聞く力とほめてあげる言葉かけができるようになった気がします。民生児童委員をやっているので、不登校のお母さんたちの話をしっかり聞いていける人になる。当事者感覚で相手の気持ちに寄り添うことが大事だと痛感しています。わたしは、笑顔ってとても大事だと思っています。心からの笑顔で、ゴールイン スタート したいと思います。

○子どもが不登校の時にセミナーや語る会に参加していましたが、子どもが少し落ち着き、地域での役割もあり、不登校で悩んでいる保護者のサポートをできないかとグループを立ち上げたところでした。何度か会を開いていますが、毎回自分たちに何ができるのか緊張と不安を覚えます。養成講座のレジュメとメモを見返しながら、自分自身を調整しつつ取り組んでいます。スタッフとして参加してくれる人たちとも分かち合いながら進められるので、この養成講座はとても助かりました。毎回の講座の後のグループトークは、実際の語る会の予行演習でもあり、いろいろな立場の方もいて、とても勉強になりました。私自身が不登校に出会って、ジタバタしているうちに出会った方々にずいぶんと助けられました。子どもたちもそうです。今、ジタバタしている方たちに「ここに行けば、何かあるかも」という情報、「そうそう、うちもそう」という安心感、ジタバタすらどうやっていいかわからない人に「一緒にジタバタしませんか」と、発信できたらいいなと思っています。